第二講　随筆（近代文語文）

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

僕は依然(やはり)湯島の下宿に住むで居た。室料の廉(やす)いのを取柄(とりえ)にわざと択(えら)むだ西向二階下便所側の三畳、夏暑くて冬寒く、所謂(いはゆる)熱時人を熱殺し寒時人を寒殺すると云(い)ふ瘧部屋(おこりべや)。三尺の縁(えん)の向ふは、猫の額程の庭に、二階から投げおとす鼻ふき紙、蜜柑の皮、竹の皮が（サ）年が年中狼藉(ろうぜき)と横(よこた)はつて、其(その)向ふが薪炭屋の物置。鬱陶(うつたう)しくて、寒くて、臭くて、騒々しくて困るが、併(しか)し僕が東京での初夢を結んだ芝口の宿屋などに比べては天壌(てんち)の相異があると云ふのは、前に云つた亭主の新七とやらが至(いたつ)て実体(じつてい)に、主婦はたきとかかきとか云つてはき〳〵したよく話の分る女、唯一(ひとつ)の癖はよく下婢(をんな)を更迭(かうてつ)するの一事で、現に僕が来てから一ケ月の間に下婢(をんな)の顔が十三度替つた位、仏蘭西(ふらんす)の内閣も中々及ばぬので、無給で下婢(をんな)を使ふ法を主婦が発見したかの様に 1 穿(うが)つた評判もあつたが、兎(と)も角(かく)も先づ手堅い下宿屋、加ふるに同宿の連中も、亭主の所謂「お堅い方ばかり」で、唯日曜や祭日の朝なぞ僕が配達から帰つてどれゆつくり一やすみと寝て居る頭の上で、二階も落つる様な相撲柔術のどたばたをやつたり、喫驚(びつくり)する程大音に失脚落来江戸城を怒鳴つたりするには聊(いさゝか)弱つたが、是迚(これとて)月琴端唄(はうた)や猥褻(わいせつ)の談で邪魔されるよりまだ幾干(いくら)か詮(あきらめ)がつく

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

と云ふもの。此豪傑組の四人の外には、猫の様におとなしい医学生で国の許嫁(いひなづけ)の写真を始終懐中して居るとか云ふ男と、矢張り開業試験を受けに出京して居る未来の扁鵲(へんじやく)で胃が悪い〳〵と云ひながら鯣(するめ)噛(かじ)つて酒飲むで急にビツトルを飲む人と、猶(なお)他に四五人。唯一人、「悪いお方ではありませんが、滅多に金などお貸しなさいますな」と主人(あるじ)が注意して呉れた木村某と云ふ青年、長崎の者で高等中学を頻りに落第する男とか、東京馴れた愛嬌者、僕が下宿へ来て二日目に「君、失敬、何卒(どうか)以来お心安く」と馴々しくはいり込むだが、六日目には「君、お気の毒ですが、壱(いち)円立替へて呉れませんか、今日あたり為替(かはせ)が来る筈だが」とやつて来た。嚢底(なうてい)無一文(もん)の由答ふると、一寸困つた様子で「君の羽織か、不用の着物でも宜(い)いから一寸(ちよいと)ほんの一寸貸して呉れませんか」と云ふので、「お寒いのですか」とは、[2]僕が一生の大出来、流石(さすが)に質(しち)に置く為とは云ひ兼ねて、苦笑して帰つて行つた。併し僕は此の木村某には感謝す可き理由を有するのである。平民新聞発行停止（激烈な非政府新聞だけ停止は毎度の事であつた）の際、僕の為めに十行二十字詰一枚五厘の筆耕を(シ)周旋(しゆうせん)して呉れたのは、君であつた。尤も後で聞(きけ)ば、原依頼者は一枚一銭五厘の割で金を渡したそうで、差引一銭は僕の手に届くまでの途中で煙と消へたのである。併し僕は尤もとこそ思へ、万々不平は云はぬ。今の世に誰か世話料(コムミツシヨン)を取らずに世話をやく人があらふぞ。（因(ちなみ)に云ふ、或時僕は某学校教師の講義録とか云ふものの

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

浄写を頼まれたが、初二十枚ばかりで忽ち謝絶された。誤写が夥（おびただ）しいとの口実であつたが、実はあまり文章がまづいので、よせば宜（よい）のに僕がちよい〳〵添削したのが、3先生の逆鱗（げきりん）に触れたのであつた）。

配達を終へて新聞社から帰ると、冷汁冷飯で晩（おそ）い朝飯を食つて、一寸睡（まどろ）むと、僕は梅干入の握飯を拵（こさ）へて貰つて、上野の書籍館に通つた。一は書籍代を倹約し、一は下宿附近の騒々しきを避けて、心静かに大学入学の準備を整ふる為である。馴れない昼夜顛倒の仕事に、睡眠時間が如何（どう）しても不足するので、兎もすれば頭がふら〳〵して、理科の書やユークリッド、トドハンタアの上に(ス)意気地なく点頭し、一度は吾れ知らず鼾（いびき）を立ててはつと心づけば、満室の青年老年或は哄笑し或は不礼な男と云ひ貌（がほ）に憤激して居るので、僕は思はず火の様に赤面したことがある。其後は4少し怪しくなると、窃（そつ）と出て、庭の腰掛（ベンチ）にもたれ、早咲の梅が香鳥の音の清きに魂を浮べ軽風暖日に背を曝（さ）らして三十分か一時間快よく睡（ねむ）つて、さめるとまた入つて書巻に対した。閉館の時刻になると、僕は種々の事を考へながら上野の森を穿（うが）つて、夕照（ゆふやけ）流るる不忍池（しのばず）の方へ下りるのが常であつた。僕は今も非常に、上野の森を愛する。人に限らず、樹木でも大きいものは側（はた）へ寄つても、誠に心地の快（よ）いもので。

燈火（あかり）がつく頃、下宿に帰つて夕飯を食ふと、非常に睡ければ燈火（あかり）を消して三時間ばかり寝るし、さも無いと早めに下宿を出て

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

（此も一は燈油(あぶら)代の節倹である。僕はしば〳〵思つた、此様(こん)な風なれば西内さんの養子にもなれそうだ）平民新聞社の土間の大火鉢の側の長木榻(ベンチ)に腰かけて、他の同僚が草鞋(わらぢ)ばきのまゝ、荒莚(あらむしろ)の上に鼾をかいたり、今は昔の栄華の夢を繰り返へしたり、或は鄙猥(ひわい)な冗談を云つたりして居る横で、薄闇いランプの光に、事務室から数種の新聞を借りて読むだ。配達の分際だから、勿論編輯局の模様は知らぬが、二階の笑声など聞ゐて已(すで)に落涙しかけて唇を噛むだことは幾回(いくたび)か知れぬ。

（徳富蘆花『思出の記』）

〈注〉扁鵲(へんじゃく)…中国、戦国時代の伝説的名医
トドハンタア…Issac Todhunter。一八二〇〜一八八四年。イギリスの数学者。

問1　傍線部1「穿つた評判」とはどういうことか。次のa〜dの中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a　手固い宿屋にしては、下婢(をんな)が十三回も替わったという評判
b　たきとかかきとかいう主婦が給料を払わずに下婢(をんな)を使う方法を見つけたという評判
c　はきはきした主婦は下婢(をんな)を更迭するくせがあるという評判
d　手固い下宿屋といわれている反面、休みの朝などドタバタと相撲などをし、落ちつかないという評判

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問２　傍線部２「僕が一生の大出来」は、なぜ「大出来」なのか、次のａ～ｄの中からその理由としてもっとも適切なものを一つ選べ。

ａ　「お金などお貸しなさいますな」という宿の主人の言葉に引かれて、借金を断わることが出来たから
ｂ　「壱円立替へて呉れませんか」という無心に、無一文であると答えたから
ｃ　羽織か着物を「ほんの一寸貸して呉れませんか」という願いに、皮肉ぽく婉曲に断ることが出来たから
ｄ　「何卒以来お心安く」となれなれしく入ってくる人間に対して警戒心をもって対応できたから

問３　傍線部３「先生の逆鱗に触れた」と筆者が述べるのはなぜか。次のａ～ｄの中からその理由としてもっとも適切なものを一つ選べ。

ａ　きれいに文章を整える約束だったのに、あまりに誤字が多かったから
ｂ　清書した講義録の内容を全く書きかえてしまったから
ｃ　清書をすればよいだけだったのに、文章のまずい部分を直してしまったから
ｄ　添削までした割には、きれいに講義録を写しとることができていなかったから

問４　傍線部４「少し怪しくなると」とはどういうことか。次のａ～ｄの中からもっとも適切なものを一つ選べ。

ａ　このまま書籍を読みつづけていると眠り込んでしまいそうな気になると
ｂ　書物の内容を本当に理解しているのか、自分で確信が持てなくなると
ｃ　勉強は続けたいのだが、書籍館の中の雰囲気が険悪になってくると
ｄ　読書よりも散歩がしたいような気分になると

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問５　以下のａ～ｅのうち、本文の内容と合うものをＡ、合わないものをＢとせよ。

ａ　筆者が東京で初めて住んだのは湯島にある室料の安い下宿であった。

ｂ　下宿を共にする連中は、下宿の亭主が言うところの「お堅い方ばかり」であったが、その内の豪傑四人組が日曜や祭日の朝に二階で相撲や柔術のどたばたをするのにはいささか閉口した。

ｃ　木村某は、長崎の高等中学で落第をつづけ、東京にやってきた。

ｄ　燈油代を節約したかったので、燈火を消して三時間ほど寝たり、平民新聞社の土間の薄暗いランプを利用して新聞を読んだりした。

ｅ　勉強をつづけるためには、なれない新聞配達の仕事を昼夜の別なく続けなければいけなくなったので、たまの休みに書籍館で大学入試の準備をする際には、居眠りをすることもしばしばだった。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講　知識モノ解説

文学史・人物解説

●筆者　徳富蘆花＝とくとみ　ろか（一八六八〜一九二七）熊本県生まれ、同志社英学校（今の同志社大学）中退。小説家。ロシアの文豪トルストイにも会見したことがある。代表作『不如帰（ほととぎす）』。晩年は東京の世田谷区に住み、住居跡が現在「芦花（ろか）公園」として整備されている。京王線の駅名「芦花公園」もこれに由来する

語句

湯島＝ゆしま→東京都文京区の地名。湯島天満宮が有名
芝口＝しばぐち→現在の東京都港区の地名
廉い＝やすい→値段が安い・廉価（れんか）
所謂＝いわゆる→世にいう・一般に言うところの
　cf所以＝ゆえん→理由・根拠
瘧＝おこり→発熱、悪寒、震えの症状を伴う熱病。マラリアなど
縁＝えん→縁側・庭に面した廊下
猫の額＝ねこのひたい→狭いことのたとえ
　cf猫も杓子も→誰も彼も・どいつもこいつも
　猫に小判（こばん）→価値のわからない人に貴重なものを与えても無駄であること
　猫に鰹節（かつおぶし）→好物を近くに置くこと。油断ができないこと
　猫にまたたび→大好物を与えること。与えると相手に対する効果がでるもの

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

猫を被（かぶ）る→本性を隠しておとなしくすること

鬱陶しい＝うっとうしい→気ざわり・煩（わずら）わしい

cf 五月蝿い＝うるさい

狼藉＝ろうぜき→オオカミの巣、寝床は乱雑とされるところから、ちらかっていること

下婢＝おんな→炊事や雑用などの下ばたらきのために雇われた女。召使の女・はしため・下女（げじょ）

更迭＝こうてつ→ある地位にある人を入れ替えること

穿った＝うがった→深読みすること

許嫁＝いいなずけ→フィアンセ・婚約者

為替＝かわせ→現金化できる一種の証書。小切手など。現金自体を輸送する代わりに使われたもの

愛嬌＝あいきょう→にこやかでかわいらしい・人に好かれる感じ・「愛敬」とも書く

嚢底＝のうてい→財布の底

無一文＝むいちもん→一文無し。金銭をまったくもっていないこと

由＝よし→わけ、理由。内容

一寸＝ちょっと→少し

大出来＝おおでき→立派な出来栄え。予想以上のよい結果。上出来（じょうでき）

筆耕＝ひっこう→清書して報酬を得る仕事

周旋＝しゅうせん→仲立ち、仲介すること。斡旋（あっせん）

忽ち＝たちまち→きわめて短時間で。またたくまに

夥しい＝おびただしい→たくさん・非常に数が多いこと

倹約＝けんやく→出費をおさえること。節約

哄笑＝こうしょう→大口をあけてどっと笑うこと。爆笑

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

点頭＝てんとう→首を縦にふる、うなずくが本来の意味だが、本文では眠りに落ちそうな様子を指す

鄙猥・卑猥＝ひわい→下品でみだらなこと

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第二講

次の傍線部にあたる漢字を、次の各選択肢から選びなさい。

（ア）ゴミがロウ藉と横たわる　①郎　②老　③労　④狼　⑤楼
（イ）衣装の費用をケン約する　①権　②倹　③剣　④険　⑤健
（ウ）意外な評バンを耳にする　①盤　②判　③番　④伴　⑤版
（エ）不届きな態度にフン激する　①奮　②墳　③憤　④噴　⑤吻
（オ）遠方からのイ頼に応える　①移　②衣　③委　④易　⑤依
（カ）家主から邪マ者扱いされる　①間　②魔　③摩　④磨　⑤馬
（キ）写真をカイ中にしのばせる　①懐　②解　③回　④怪　⑤介
（ク）豪ケツ四人組の仕業だ　①結　②潔　③傑　④訣　⑤決
（ケ）医師の試験に落ダイする　①台　②題　③弟　④醍　⑤第
（コ）新しい仕事をシュウ旋する　①収　②周　③集　④就　⑤酬

本文中の波線部（サ）～（ス）の意味をそれぞれa～dの中から一つ選べ。

（サ）
a　いつでも申し訳なさそうに散らかされていて
b　年中これ見よがしに散らかしてあって
c　年中甲斐もなくそのままにしてあって
d　いつも散らかし放題に散らかっていて

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

（シ）

a　間に入ってうまく取りもってくれた

b　仕事先として一方的に決めてくれた

c　複数の人たちの間で回覧してくれた

d　先回りをして片付けておいてくれた

（ス）

a　うっかりとして頭をぶつけ

b　がまんできずに頭を下げて

c　元気もなく頭を悩まし

d　あきらめて降参し

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講　付録（近代文語文）

　基督（キリスト）教は、現世の貧苦および不幸を、直ちに救済することに着手した。しかもその救済の栄誉を神に帰せんとしたのである。社会主義が貧苦に対して採る所の解決法も、またこれに等しいのである。自由競争主義を賛する者は、貧富の懸隔をもって優勝劣敗の結果なりとし、これを自然の法則なりと諦（あきら）めおることは、あたかもマホメット信者が運命説を確守せるが如きものである。彼らが劣者の敗れたるをもって彼らの努力の不足に因（よ）るものとなすは、猶（な）お仏教が人の不幸をもって前世の応報なりと説くがごときではないか。社会主義は、これらの不道理なる説に反抗せんが為に起った。貧者の多数は、決して自己の過失の為に貧困に陥ったのではない。その責任は彼等に在るのではなくて、社会組織そのものに在りと喝破（かっぱ）したのが社会主義である。されば吾人（ごじん）は、この点において社会主義と基督教の類似を見るのである。

　基督教も社会主義も、弱者の為に同情を表するという点において一致している。勿論、世界を包容するほどの大主義は、決して一階級や一局部の人のみにその福音（ふくいん）を伝うべきものではない。故に基督の弟子ポーロの如きは、ユダヤ人に対してもギリシャ人に対しても、また貧しき人にも富める人にも負える所ありというておる。社会主義をもって単に貧者の利益を謀（はか）るものと考えるのは、誤謬である。吾人の見る所をもってすれば、社会主義の為に利益を得る者は、ただに貧者のみではない。富者もまた生活の安固を得て、真に人生の愉快を味わうことができるのである。されば、基督教も社会主義も、一視同仁の心をもって起ったのであることは疑ない。

　然（しか）れども、もしその同情の最も多く注ぐ所は何れの階級なりやといわば、それはいうまでもなく世の弱者である。基督は、その活動の初めに当りて、明白に自己の主義を宣言している。彼がバプテズマのヨハネに就（つ）き、多く修養する所ありて、その郷里に帰り来たるや、彼の親戚および知人は、一日、会堂に集まりて、彼の新説を聴かんことを求めた。彼は徐々に演壇に進んで処女演説を試みんとしたが、彼がイザヤ書より引照したる句は、実に左の如くであった。『主の霊、我に在（いま）す故に、貧者に福音を宣伝せんことを、我に膏（あぶら）を沃（そそ）ぎて任じ、心の傷める者を医（いや）し、また囚人に釈（うるお）さん事と瞽者（めしい）に見させん事を示し、また圧制せらるる者を縦（はな）ち、主の禧年（めぐみのとし）を宣（の）べ播（ひろ）めんが為に我を遣（つか）わせり』。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

これ実に基督の宣言書であって、彼が貧者、囚人、瞽者および抑圧を受けたる者に対する同情の如何(いか)に深きかを想見することができるではないか。吾人は社会主義の歴史を見て、その同情が主として貧者弱者の上に在るを想い、この点においてもこの二者がその趣を同じゅうせるを知るのである。

さらに進んで、この二主義が如何に弱者に対して大なる慰藉(いしゃ)を与うるかを見よ。基督教は決して弱者を弱者視せず、罪人を罪人視せぬのである。如何に汚濁(おだく)の生涯を送りたる人にても、一朝(いっちょう)悔悟すれば、彼は神の子と呼ばるることができる。神は我らの罪を忘れたまうとは、是(こ)れ旧約書の吾人に告ぐる所ではないか。社会は吾人の旧悪を記憶しているかも知れぬ。侮蔑と嘲罵(ちょうば)とは彼らの口より出ずるかも知れぬ。しかも天地神明(てんちしんめい)の前において、吾人は無罪の宣告を受けたのである。世の弱者に対してこれにまさりたる福音が他にあるであろうか。

而(しこう)して基督教主義が精神的方面において絶対的寛容主義を標榜(ひょうぼう)するが如く、社会主義は物質的方面において同一の主義を主張するのである。現社会における競争に打ち負けたる弱者劣者も、社会主義の行わるる社会においては一人前の人間として取り扱わるるではないか。自由競争主義は飽(あ)くまでも各人の材能に応じてその報酬を異にすべきを主張すること、恰(あた)かも倫理学者が各人の行為に依り優劣を定めんとするが如くであるけれども、社会主義は基督教の寛容主義と同じく、何人をも同等の地位に置きて同一の取り扱いを為さんとするのである。一旦(いったん)悔悟して神前に立たば、各人皆等しく神の子となるではないか。比較的罪悪の少きものが罪悪の多きものに勝りて特種の取り扱いを受けんとするが如きは、僭越(せんえつ)の甚(はなはだ)しきものである。社会主義の実行は、人類全体に取りて大なる福祉である、光明である。この福祉の裡(うち)にありながら、尚お僅少なる才能の差を言い立てて特種の取り扱いを請求せんとするが如きは、愚もまた甚しいではないか。大赦令(たいしゃれい)発布の下には罪の軽重を問わずして、囚人皆その恩恵に与(あずか)るのである。基督教も社会主義もある意味における大赦令であって、平等主義の立場より人類を救済せんとするのである。世の弱者がこれに依りて大なる慰藉を得るのは当然のことである。

基督教は大胆に平等主義を宣伝する点において、全く社会主義と経路を一にしている。宗教家の眼中には貧富の区別もなく知遇の差違もない。同胞兄弟という観念は、階級思想を全く打破するのである。我は神の子ではないか。王侯貴人と雖(いえど)もまた我が同胞なりとは、宗教家が普通の事として考える所である。神は天地を包容する者ではないか。幾億万里を隔てたる天の一涯においても、神は尚お存在したまうではないか。我らの生存する地球は是れ大海の一滴にして、その一塊(いっかい)の地上に生育せる吾人人

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

類が人為的階級を立てて、あるいは誇り、あるいは羨(うらや)むが如き、あまりに気の小さき話ではないか。ひるがえりて吾人は何れも神の子たることを思わば、小異を立てて相争うが如きは、全く児戯(じぎ)に属するものといわねばならぬ。社会主義の起りたるも、全くこの平等主義を実行せんが為である。基督教が精神的方面より平等主義を唱うるに対し、社会主義は先ず経済上の平等を実行し、漸次(ぜんじ)これを政治、社会、道徳の方面に及ぼさんとするのである。

以上述べたる所に依れば、社会主義と基督教は、その主張において相似たる所あるのみならず、彼らが提携するにあらざれば、おの〳〵その目的を達することも困難であろうと思う。吾人は社会主義の唱道するが如き社会にあらずんば、到底基督教の道徳が実行され得(う)べしとは信ずることができぬ。如何に博愛が吾人の養うべき美徳なりとはいえ、現社会において遺憾(いかん)なくこれを実行することはできぬではないか。蓋(けだ)し現社会においては、自他の利益相反すること少なからず、従って吾人は道徳を行うに多くの困難を感ずるのである。もし社会にして平等主義と協同主義の上に立たば、吾人の一言一行は、おのずから博愛の途に合うことになるであろう。基督教が社会主義の助けを借らざるべからざるは、無論の事ではないか。

然れども、社会組織の改革は、個人的基礎を無視して実行することはできない。社会主義の唱道する社会組織の現出する時には、もはや個人の道徳品性も今日の如きにあらざることを予想せねばならぬ。故に社会主義を宣伝するものは、同時に精神的方面にも努力する所がなくてはならぬ。吾人は必ずしも基督教というを要せず、然れども基督教の有するが如き精神を有することは必要である。別言すれば、吾人は飽くまでも自ら清潔なる品性を修養して改革の事に当らねばならぬのである。

世人(せじん)、往々吾人の主張を指して基督教社会主義と称するものがある。吾人は敢てこの名称を避けんとするものではないけれども、これが為め幾分誤解の生ずることなしとも保(ほ)し難い。吾人は基督教の精神に依りて社会主義を宣伝せんとするものなれども、これが為め社会主義の主張を変化するが如きことはない。吾人は彼の英国などにおける基督教社会主義の如く、単に社会改良主義を主張して満足するものではない。吾人はここに明言す。吾人の社会主義は社会民主主義にして、最も根本的に社会を改造せんことを主張するのである。ただ吾人は、この任の如何に重且つ大なるかを思うが故に、まず自己を修養するの必要を感ずるとともに、我が社会主義をして大いに精神的方面に発展せしめんことを希(ねが)うのである。

（安部磯雄の文章に拠る）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講　知識モノ解説

文学史・人物解説

●筆者　安部磯雄＝あべ　いそお（一八六五〜一九四九）福岡県生まれ、同志社英学校（今の同志社大学）卒。早大講師・教授を務め、早大野球部の創設者。西早稲田にあった野球部の公式練習場は「安部球場」と呼ばれた。その後、その敷地は早大中央図書館などになったが、二〇一五年東伏見キャンパスにて「安部球場」は復活となった

語句

懸隔＝けんかく↓へだたり、距離があくこと

喝破＝かっぱ↓大声で相手を打ち負かすこと。真実を解き明かすこと

吾人＝ごじん↓わたし、あるいは我々のこと

福音＝ふくいん↓キリストの教え、キリストによって人類が救済されるという喜ばしい知らせ。宗教と関係なく、うれしい知らせという意味で使われることもある

引照＝いんしょう↓他のものと引き比べること

慰藉＝いしゃ↓なぐさめ、いたわること

一朝＝いっちょう↓わずかなあいだ、一度。「一朝一夕（いっちょういっせき）」もわずかな時間の意味

嘲罵＝ちょうば↓相手をあざけりばかにすること

天地神明＝てんちしんめい↓この世の多くの神々

標榜＝ひょうぼう↓主義主張を公然とかかげること

僭越＝せんえつ↓立場や地位もわきまえず出過ぎた言動をすること

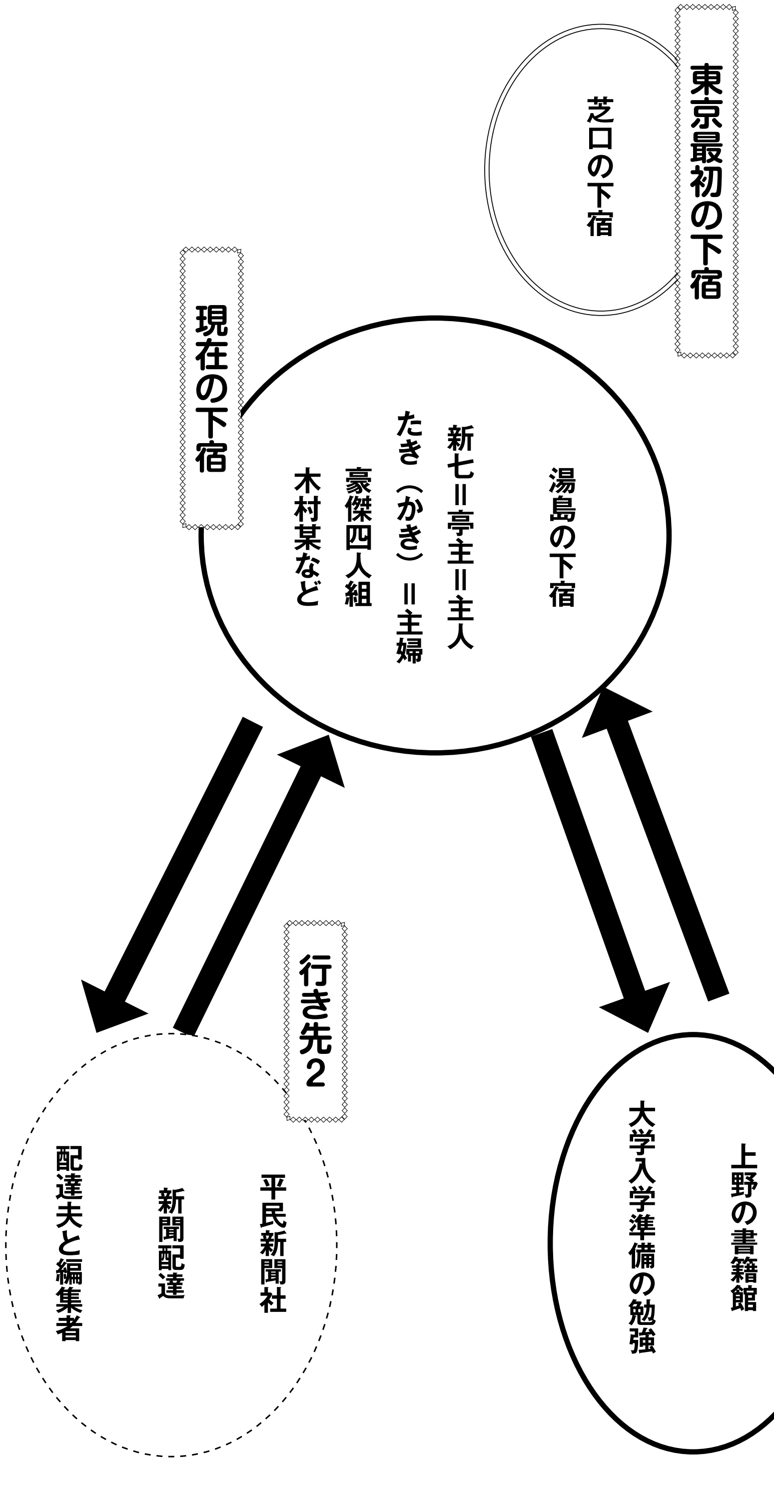
© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

僅少＝きんしょう→ほんのわずかなこと
大赦＝たいしゃ→無罪放免にすること
知遇＝ちぐう→認められて手厚くもてなされること
蓋し＝けだし→「私が思うに」の意味
往々＝おうおう→しばしば、よくあることだが
遺憾＝いかん→思い通りにいかずに心残り、残念の意味。「遺憾なく」で充分に、存分に、思い残すことなくの意味
唱道＝しょうどう→先頭に立って意見を唱える
修養＝しゅうよう→学問をおさめ、道徳的にも高めようとすること

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講　随筆（近代文語文）

《本文の人物・場所相関図》



© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

《解説》

問１《傍線部説明・選択肢》

「穿つた評判」とは、深読みしたうわさということです。事実かどうかはわからないがちょっとした悪評が広がっているということです。内容を言うと、まず、湯島の下宿先の主婦が次々とお手伝いさんを辞めさせて入れ替える事実があります。それがあまりにも何回もあるところから、給料を払わないで人を使う（見習い期間中だから給料はなしというような）方法を主婦が見つけたのではないかと評判になったのです。したがって、ｂ「たきとかきとかいう主婦が給料を払わずに下婢（をんな）を使う方法を見つけたという評判」が正解です。

他の選択肢をチェックします。ａは「下婢（をんな）が十三回も替わったという評判」が×です。それは評判ではなく事実です。記述に反する誤りです。ｃも同様で「主婦は下婢（をんな）を更迭するくせがあるという評判」とありますが、これも評判ではなく事実です。ｄ「手固い下宿屋といわれている反面、休みの朝などドタバタと相撲などをし、落ちつかないという評判」はどうでしょう。もう主婦の話でなくなっている点で×ですし、「相撲」も評判ではなく事実です。記述に反する誤りです。動画では、事実と評判の色分けをしています。ゆえにこの点では、ａ・ｃ・ｄは対比混乱の誤りでもあります。

問２《傍線部説明・選択肢》

主人から金なんか貸さない方がいいですよと警告を受けていた、その木村くんがさっそくやってきます。「壱円（いち）立替へて呉れませんか」「嚢底（なうてい）無一文（もん）の由答ふる（財布には一銭もないよという内容のことを答える）」が最初のやり取りです。これでは引き下がらない木村くんは「君の羽織か、不用の着物でも宜（い）ゝから一寸（ちよいと）ほんの一寸貸して呉れませんか」とたたみかけてきます。よほど金が必要なんですね。もちろん「僕」は、その着物を質屋で現金化するつもりだろうと見抜いています。ただし、それをストレートに言い放っても「僕が一生の大出来（わが人生史上、もっともうまく言い返した、上出来だぜ）」とはなりません。そこで換金目的と見透かしたうえで、服を借りたいというのは「お寒いのですか」と切り返したわけです。木村くんも金が欲しいんだとストレートに言わず着物をちょっと「貸して」と言ったのに対して、「僕」も金なんか貸さないよと言わずに、婉曲に断ることに成功しています。こうした皮肉や逆説性など〝言葉の二重性〟は好んで入試に出されます。したがって、ｃ「羽織か着物

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

を『ほんの一寸貸して呉れませんか』という願いに、皮肉ぽく婉曲に断ることが出来たから」が正解です。

他の選択肢を吟味してみましょう。a「『お金などお貸しなさいますな』という宿の主人の言葉に引かれて、借金を断わることが出来たから」ではマンマです。ストレートです。ひねりも二重性もありません。b「『壱円立替へて呉れませんか』という無心に、無一文であると答えたから」は、ひねりのない一回目のやり取りです。d「『何卒以来お心安く』となれなれしく入ってくる人間に対して警戒心をもって対応できたから」では着物が出てきません。ひねりもありません。動画では、これら〝ストレート〟〝ひねりなし〟と正答の〝ひねりあり〟を色分けしています。したがって、この点では、a・b・dは対比混乱の誤りといえます。

問3《傍線部説明・選択肢》

「逆鱗に触れた」とは、ひどく相手を怒らせた、感情を逆(さか)なでして激昂(げっこう)させたということです。どうしてかというと、ある学校教師の講義録を浄写（きれいに清書）する仕事を引き受けた「僕」が文章の内容にまで踏み込んで添削（よくない部分をカットしたり、よりよい表現を足したり）したからです。それで先生が怒っているのです。したがって、c「清書をすればよいだけだったのに、文章のまずい部分を直してしまったから」が正解です。ちなみに、私（小柴大輔）も小論文の答案を添削しますが、愛情をもって赤ペンを入れ、修正されて感激と生徒さんに思ってもらえるよう努力をしております。

他の選択肢を吟味します。aは、まず「きれいに文章を整える約束だったのに」が×です。頼まれた仕事、つまり「約束」に相当するのは「浄写」です。「文章を整える」など修正を加えることではありません。記述に反する誤りです。また「あまりに誤字が多かったから」も記述に反する誤りです。本文に「誤写が夥(おびただ)しい」とありますが、それは「僕」がこの仕事を辞めさせられる「口実」です。

b「清書した講義録の内容を全く書きかえてしまったから」は「全く書きかえて」が誤りです。本文に根拠なく〝あらゆる・すべての・いつでも・どこでも〟と大きく語ってしまうのは、不当な全称判断です。添削は部分的な修正のことです。全く書きかえてしまったら、ほぼ創作ですな。

d「添削までした割には、きれいに講義録を写しとることができていなかったから」はどうか。「添削」こそ怒りの原因なの

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

にそこはお咎めなしにしている点がまずアウト。次に「きれいに講義録を写しとることができていなかった」が×。ａと同様に、そこは「口実」にすぎません。記述に反する誤りです。動画では、「正式な依頼」と「口実（表面上の解雇理由）」と「事実（本当の解雇理由）」を色分けしています。したがって、この点では、ａ・ｄは対比混乱の誤りでもあります。

問４《傍線部説明・選択肢》

まず、新聞配達と大学入学の準備で昼夜逆転の生活をしていたことが書かれています。また「睡眠時間が如何しても不足」とも書かれています。そのせいで図書館で鼾を立てて周りの顰蹙を買った経験も書かれています。これらが前提・前フリとしてあって、さあ「其後は少し怪しくなると」、外に出て庭のベンチで「三十分か一時間快よく睡つて」また戻るというようなことをしたわけです。したがって「少し怪しくなる」とは眠気がおそってきたな、このまま睡魔に抵抗できるか自信がないということです。ａ「このまま書籍を読みつづけていると眠り込んでしまいそうな気になると」が正解です。

他の選択肢をチェックします。ｂ「書物の内容を本当に理解しているのか、自分で確信が持てなくなると」では、眠気とは関係なくなってます。まあ、一度で内容理解できないなら、何度も読まないとね。それから対比で文章読んでるか、と忠告したくなりますね。ともあれ、今回は理解力の問題ではありません。

ｃ「勉強は続けたいのだが、書籍館の中の雰囲気が険悪になってくると」は二重に間違えています。まず、勉強を続ける自信がないほど眠気がやってきているということ、さらに「雰囲気が険悪」になるのは、鼾をかくほど寝てしまった結果として生じることです。まだ寝入ってませんから！　つまり記述に反する誤りです。

ｄ「読書よりも散歩がしたいような気分になると」も記述に反する誤りです。まず読書・勉強がメインです。同じ段落の最後に、「上野の森」を散策するようなシーンが描かれ、「僕は今も非常に、上野の森を愛する」とありますが、この散策場面は図書館の「閉館の時刻」になってからの話です。

問５《全体の理解・正誤問題》

ａ「筆者が東京で初めて住んだのは湯島にある室料の安い下宿であった。」について、第一段落に「僕が東京での初夢を結ん

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

だ芝口の宿屋」という表現があります。したがって「東京で初めて住んだのは湯島」は誤りです。記述に反する誤りです。また、動画では「湯島」と「芝口」を色分けしていますから、この点では対比混乱の誤りです。

b「下宿を共にする連中は、下宿の亭主が言うところの『お堅い方ばかり』であったが、その内の豪傑四人組が日曜や祭日の朝に二階で相撲や柔術のどたばたをするのにはいささか閉口した。」は本文の内容に合っています。豪傑組の四人について「聊（いささか）弱つた」と書いてありますから。「閉口」とは、手におえなくて困る、弱ることです。辟易（へきえき）とも言います。

c「木村某は、長崎の高等中学で落第をつづけ、東京にやってきた。」は誤りです。本文には「木村某と云ふ青年、長崎の者で高等中学を頼りに落第する男とか、東京馴れた愛嬌者」とあります。落第を続けているのは、東京の高等中学ということになります。そうでないと「東京馴れた」と適合しません。あらためてcは記述に反する誤りということになります。

d「燈油代を節約したかったので、燈火を消して三時間ほど寝たり、平民新聞社の土間の薄暗いランプを利用して新聞を読んだりした。」は最終段落の記述に合致しています。「燈火（あかり）を消して三時間ばかり寝る」「燈油（あぶら）代の節倹」「平民新聞社の土間」「薄暗いランプ」「新聞を借りて読むだ」など全部書いてあります。

e「勉強をつづけるためには、なれない新聞配達の仕事を昼夜の別なく続けなければいけなくなったので、たまの休みに書籍館で大学入試の準備をする際には、居眠りをすることもしばしばだった。」のうち「昼夜の別なく」が×です。正しくは「昼夜顚倒」です。昼夜が逆転する生活だったということで、昼も夜も区別なくずっと仕事していたわけではありません。記述に反する誤りです。

模範解答

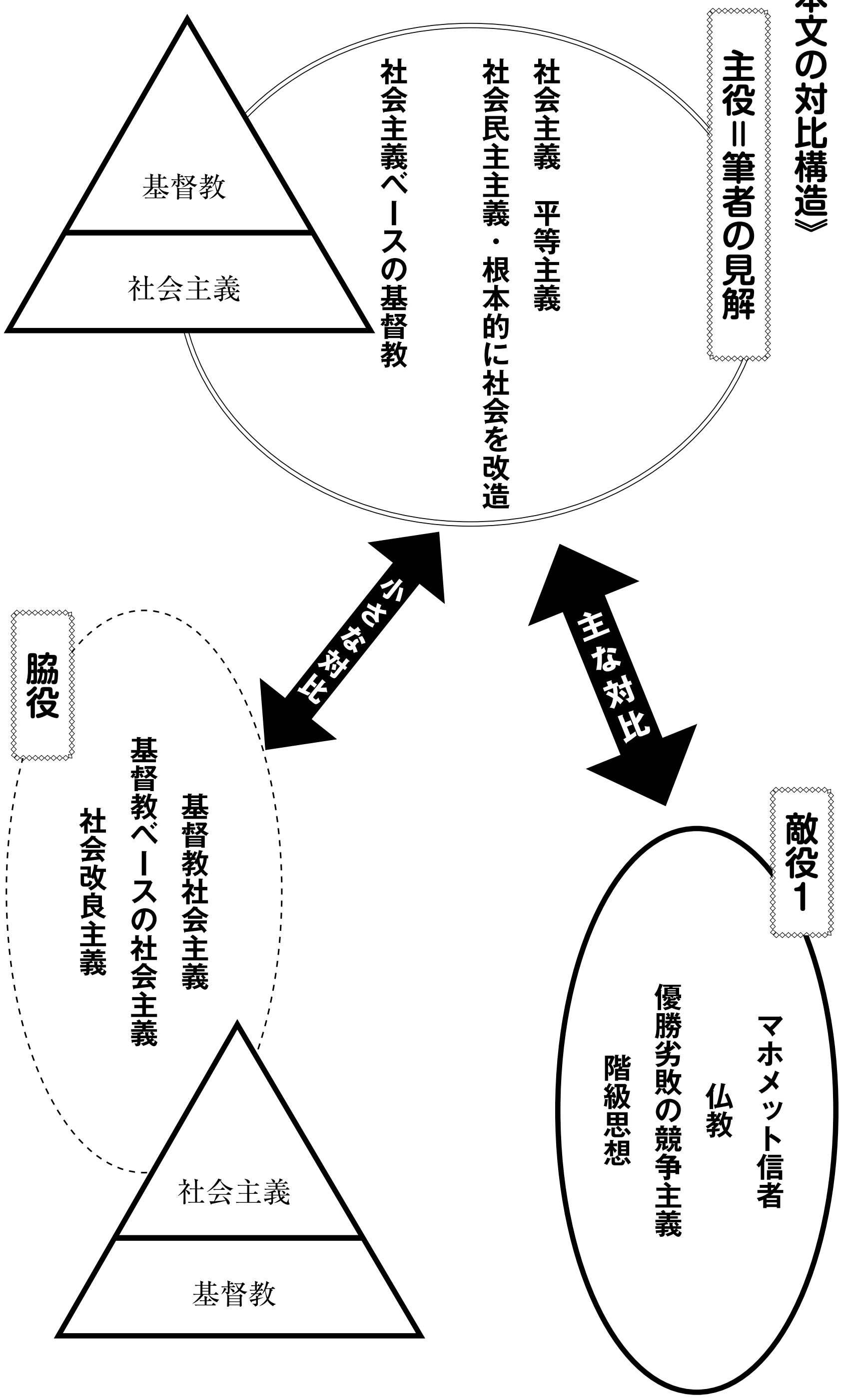
問1＝b　問2＝c　問3＝c　問4＝a

問5　a＝B　b＝A　c＝B　d＝A　e＝B

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講　付録（近代文語文）

《本文の対比構造》



© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

《現代語にしました》

キリスト教は、この世の貧困の苦しみおよび不幸を、直ちに救済することに着手した。しかもその救済の栄誉を神のもの、神のおかげとしようとしたのである。社会主義が貧困の苦しみに対して採用する解決法も、またこれに等しい。自由競争主義を称賛する人は、貧富の格差を優勝劣敗の結果だ、能力の高い者が高額所得で、能力の劣るものが低所得になるのは当然の結果で、自然法則だとあきらめる態度は、イスラム教徒が運命説（人の幸不幸は運命で決まっている）を固く守っている態度と同じようなものだ。彼らが劣った者が敗れ、貧困にあえぐ姿を見て努力が足りないからだとみなす態度は、ちょうど仏教が人の不幸を前世でよくないことをした報い（因果応報）だと言うのと同じではないか。社会主義は、これらの道理に合わない説に反抗するために提起された。貧者の多数は、決して自己の過失のために貧困に陥ったのではない。その責任は彼らにあるのではなくて、社会組織そのものにあると真実を解き明かしたのが社会主義である。そうであるから私は、この点において社会主義とキリスト教との類似を見るのである。

キリスト教も社会主義も、弱者にむけて同情を表すという点において一致している。もちろん、世界を包み込むほどの大主義は、決して一つの階級や一つの部局の人にのみに神の祝福や幸福を伝えようとするものではない。ゆえにキリストの弟子、ポーロ（パウロ）のように、ユダヤ人に対してもギリシャ人に対しても、また貧しい人にも裕福な人にも関わり責任を負うと言っている。社会主義をもって単に貧者の利益を実現しようとするものと考えるのは、誤りである。私が見るところでは、社会主義によって利益を得る者は、ただ貧者のみではない。富者もまた生活の安心と安定を得て、真に人生の愉快を味わうことができるのである。そうであるから、キリスト教も社会主義も、等しくみんなを愛する（一視同仁）心をもって成立したことは疑いない。

けれども、もしその同情の最も多く注がれるのはどの階級かといえば、それはいうまでもなくこの世の弱者である。キリストは、その活動をはじめるにあたって、明白に自己の主張を宣言している。彼がバプテズマのヨハネ（洗礼のヨハネ・イエスの先駆者）に心を寄せ、多くを修養して学び、キリストの郷里に帰って来て、彼の親戚及び知人は、一日、会堂に集まり、彼の新説を聴くことを求めた。彼はゆっくりと演壇に進んで最初の演説を試みようとした。そこで彼がイザヤ書（旧約聖書の一節）から、引用して語った句は、実に次のようなものであった。『主の霊、我とともにおられるゆえに、貧者に神の祝福があることを伝えさせるために、私にあぶらを注いで神の使いとして任じ、心を痛めたものを癒し、また囚人を釈放し、目の見えない者を見える

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ようにすることを示し、また政治的に圧制されたものを自由にし、神のめぐみがあるということを広めるために私を遣わしたのだ』。

これは実にキリストの宣言書であって、彼が貧者、囚人、目の見えぬ者および抑圧を受けた者に対する同情のいかに深いかを思い知ることができるではないか。私は社会主義の歴史を見て、その同情が主として貧者弱者の上にあることを思い、この点においてもこの二者が活動の趣旨として同じであることを知るのである。

さらに進んで、この二つの主義がいかに弱者に対して大きな慰めを与えるかを見よ。キリスト教は決して弱者を弱者として見ず、罪人を罪人として見ないのである。いかに汚濁のけがれた生涯を送った人だとしても、一度悔い改めたのならば、彼は神の子と呼ばれうる。神は私たちの罪を忘れてくださるとは、旧約聖書が書き記していることだ。社会は私たちが犯したかつての悪事を記憶しているかもしれない。侮蔑とののしりが世間の人々の口からでるかもしれない。しかし、神の前で、私たちは無罪の宣告を受けたのである。世の弱者に対してこれにまさる神の祝福がほかにあるだろうか。

こうしてキリスト教主義が精神的方面において絶対的寛容主義をかかげるのと同じように、社会主義は物質的方面において同一の主義を主張するのである。今の社会での競争に打ち負けた弱者劣者も、社会主義が行われる社会においては一人前の人間として取り扱われるではないか。自由競争主義はあくまでも各人の能力に応じてその報酬を変えるべきと主張することは、まるで倫理学者が各人の行為により優劣を決定するのと同じである。けれども、社会主義はキリスト教の寛容主義と同じく、誰をも同等の地位にあるとみなして同一の取り扱いをしようとするのである。いったん悔い改めて神の前に立ったならば、どの人もみんな等しく神の子になるではないか。比較的罪悪の少ない者が罪悪の多い者に優越して特別の取り扱いを受けようとするなど、僭越・出過ぎたまねであることは甚だしい。社会主義の実行は、人類全体にとって大きな福祉・幸福である、希望の光である。この福祉・幸福の中にいながら、なおごくわずかな違いを言い立てて特別な取り扱いを求めるような行為は、きわめて愚かしいことではないか。大赦令（無条件に囚人全員を無罪放免にする命令）発布のもとでは罪の軽さや重さに関係なく、囚人みんながその恩恵を受けるのである。キリスト教も社会主義もある意味において大赦令であって、平等主義の立場から人類を救済しようとするのである。世の中の弱者がこれによって大きな慰めと安心を得るのは当然のことである。

キリスト教が大胆に平等主義を宣伝する点において、社会主義のゆく道とまったく同一である。宗教家の目には貧富の区別も

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

なく知り合いかどうかの違いもない。同胞兄弟（みんな仲間で兄弟）という観念は、階級思想を完全に打破するものである。私たちは神の子ではないか。王侯貴族といえどもまた私たちの仲間だとは、宗教家が普通の当たり前のこととして考えていることである。神は天地、この世のすべてを包容、包み込む者ではないか。数億キロ離れたこの世界の片隅においても、神はなお存在なさっているのではないか。私たちが生存する地球は大海の一滴、大きな世界のごく一部であり、その小さなひと塊りにすぎない地上にて生きている私たち人類が階級を人為的に立てて、あるものは階級が上であることを誇り、あるものはそれをうらやむなど、あまりにも気の小さい話ではないか。ひるがえって私たちはどの人も神の子であることを思えば、小さな差異を目立たせて互いに争う姿などは、まったく児戯、子供並みの行為に属すると言わなければならない。社会主義が提起されたのも、まったくこの平等主義を実行しようとするためである。キリスト教が精神的方面から平等主義を唱えるのに対して、社会主義はまず経済上の平等を実行し、しだいにこれを政治、社会、道徳の方面に広げていこうとするのである。

以上に述べたように、社会主義とキリスト教は、その主張において互いに似たところがあるだけでなく、両者が提携・協力しなければ、それぞれの目的を達成することも困難であろう。私は社会主義が提唱するような社会にならなければ、到底キリスト教の道徳が実行されうるとは信じることができない。いかに博愛・平等な愛情が私たちの養うべき美徳だとはいえ、現実社会においていかんなく存分にこれを実行することはできないではないか。私が思うに、現実社会においては、自己と他者の利益は互いに反することが少なくない。したがって、私たちは道徳を行うときに多くの困難を感じるのである。もし社会が平等主義と協同主義の上に立脚したら、私たちのどんな発言、どんな行為も、自然と博愛の道に合致することになるだろう。キリスト教が社会主義の助けを借りるべきなのは、当然のことではないか。

けれども、社会組織の改革は、個人という基礎を無視して実行することはできない。社会主義の提唱する社会組織の現出するときには、もはや個人の道徳品性も今日のありさまとは異なってよくなるであろうことを予想しなければならない。ゆえに、社会主義を宣伝する者は、同時に精神的方面にも努力するところがなくてはならない。私はその精神的方面が必ずキリスト教でなければならないとまで言うつもりはない。しかしキリスト教がもつような精神をもつことは必要である。言い換えれば、私たちはあくまでも自ら清潔な品性を修養して改革の事業に当たらなければならないのである。

世の中には、しばしば私の主張のことをキリスト教社会主義と呼ぶ人がいる。私はあえてこの名称を拒む気はないけれども、

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

この名称のため、いくらか誤解の発生することがないともいえない。私はキリスト教の精神に基づきながら社会主義を宣伝しているのだけれど、このために社会主義の主張を変化させるようなことはない。私はイギリスなどにおけるキリスト教社会主義のように、単に社会改良主義を主張して満足するものではない。私はここに明言する。私の社会主義は社会民主主義であり、もっとも根本的に社会を改革しようと主張するのである。ただ私は、この任務のいかに重くて大きいかを思うがゆえに、まず自己を修養し磨く必要を感じるとともに、この社会主義を大いに精神的方面に発展させようと願っているのである。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　解答　第二講

（ア）④　（イ）②　（ウ）②　（エ）③　（オ）⑤
（カ）②　（キ）①　（ク）③　（ケ）⑤　（コ）②
（サ）d　（シ）a　（ス）b

解答漢字一覧

（ア）狼藉　（イ）倹約　（ウ）評判　（エ）憤激　（オ）依頼
（カ）邪魔者　（キ）懐中　（ク）豪傑　（ケ）落第　（コ）周旋

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。